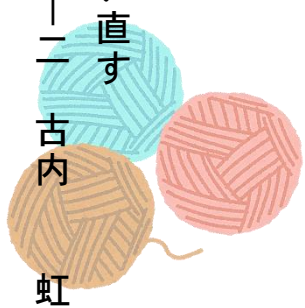


【十一月】お題「旅」・「毛糸」・「離」・「添える」

月間賞

けんかしてぷつんと切れた絆の糸手を握ってまた結い直す

三―二 古内 虹



第二席

添えられた手のぬくもりを手放した僕の気持ちを隠したままで

一―二 佐々木優香

第三席

すいません写真撮ってくださいと声かけといて恥ずかしくなる
夢の中マスク外してデイズニーへとても楽しい夢旅でした
「だいじょうぶ」言い聞かせて家を出る未来へ向かって旅立つ朝
離れゆく君の背を見て足止めるここで素直に言えたのならば

一―三 安倍くるみ
三―一 多田 瑞希
三―二 菅原 澤
三―三 濱田 優菜

優良賞

セーターのほつれすらも愛おしく私の心を優しく包む
方位磁石コンパスの導きによる旅ひとつ確かなものを見届けるため

二―二 安田 唯
三―一 阿部 陽和

佳作

真つ赤な手添えたカイロを握りしめ素っ気ないけどなぜか嬉しい
ゆつくりと石に囲まれ歩く道目の前の墓に一輪の花
雪降る日母が毛糸で繕ったマフラー首にいつてきます
夢見ては儚く消える砂時計時を廻りてはじめに戻る
弁当が茶色でさみしいそんな時緑の葉っぱを添えて鮮やか
今はまだ会えない日々が続くので毛糸で作ったオシャレを届ける
真っ白な空気に溶けて消えそうだ添えた右手は熱を宿しぬ
期待して待つも来ずの夜八時一〇〇%の虚しいスマホ
君のため練習してた編み込みに手を添え想う香りシャンプー

一―二 猪股 響生
一―二 佐々木 唯
一―三 安達 李玖
二―三 広瀬 亜美
三―一 阿部 海斗
三―三 沖田 希望
三―三 菊地 茉帆
三―三 佐々木愛梨
三―三 佐々木愛梨

入選

もう会えぬ人こそ思い出さぬ時なくて旅路の余韻に浸る
親元を離れた木の葉はふらふらと風に乗せられあてなき旅へ
毛糸見て何か作ると思うけど結局作らず放置したまま
寒い朝母の手作り首に巻く世界で一つの赤いマフラー
別れのときあるのは少しの後悔と悲しくよぎる思い出の記憶
正月に母のもとへ里帰りそれも一つのひと旅となり
葉は枯れて吐息も白いこの時期ときに鮮やかな秋は離れつつある

一―一 橋本 椎真
一―二 中鉢 翔
一―二 荒木 舞優
一―二 佐々木 唯
一―三 青柳 優耶
一―三 伊藤 祐晴
一―三 佐々木陽菜

画面越しどう足掻いても触れない伸ばしたこの手は空くうを切るだけ
日が沈み友が集まり笑い合い時が過ぎてても時をもともに

二―一 佐藤 愛結
二―二 八島 詩穂

外灯に照らされできたグレーの影何もかもが私の気持ち
 何もない場所に花束添えてみる悲しげに咲く鈴蘭の音
 お互いが夢見て歩き離れても未来の先で約束しよう
 貴方への毛糸のマフラ―編んでいく貴方と過ごす思い出添えて
 町離れ何も決めずにふらふらと小さな秋を見つける旅路
 花添えて窓辺にゆれる一輪が陽の光浴び心安らぐ
 ふわふわと毛糸のように生きてきた社会に出れば布の一部分
 社会への知らぬ世界踏み入ろう準備をしたら旅に出ようか
 住み慣れた我が家を離れ新天地新たな道に期待と不安
 寒い冬誰かのために毛糸編むひとつひとつ思いを込めて
 旅の途中「さようなら」を繰り返すたまには後ろを振り向き歩こう
 何回も編んではほどこいてまた編んで紫の毛糸は祖母の冬

二―二 安田 唯
 二―三 広瀬 亜美
 二―三 広瀬 亜美
 二―三 遊佐 茉星
 二―三 遊佐 茉星
 三―一 朝倉 成美
 三―一 中澤ひなた
 三―二 金子 光
 三―二 高橋 真人
 三―三 斉藤 佑果
 三―三 千葉みずき
 三―三 千葉みずき